

研究成果情報	農産	1	稲	育種
新技術・情報名	水稻新系統「ちくし11～14号」の育成		分類	③

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

良質良食味の早生「ちくし11、12号」と中生「ちくし13、14号」を育成した。

「ちくし11号」：（月の光／コシヒカリ、F₇）、熟期は日本晴級。日本晴と比較して、やや短稈で、耐倒伏性は同程度である。収量性、外観品質はやや勝る。食味評価は日本晴よりやや勝る。縮葉枯病抵抗性。

「ちくし12号」：（朝の光／コシヒカリ、F₆）、熟期は日本晴級。日本晴と比較して、稈長、耐倒伏性は同程度である。収量性、外観品質はやや勝る。食味評価は日本晴より勝る。

「ちくし13号」：（南海102号／ツクシホマレ、F₆）、熟期はヒノヒカリ級。ヒノヒカリと比較して、やや短稈で、耐倒伏性はやや勝る。収量性はやや劣るが、肩米重歩合がやや低く、外観品質は同程度である。千粒重はやや大きい。食味評価はコシヒカリと同程度である。

「ちくし14号」：（黄金晴／キヌヒカリ、F₆）、熟期はヒノヒカリ級。ヒノヒカリと比較して、短稈で、耐倒伏性はやや勝る。肩米重歩合は低く、収量性、外観品質はやや勝る。食味評価はコシヒカリと同程度である。

2) 技術・情報の適用効果

本系統は早生～中生の有望系統として期待される。

3) 適用範囲

県下全域

4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

平成4年度以降、奨励品種決定基本調査、現地試験及び特性検定試験に供試して、栽培特性や食味等を検討する。

2. 具体的データ

表1 新育成系統の生育・収量（平成3年）

系統名 及び 品種名	出 穂 期	成 熟 期	稈 穂		穂 数	玄 米			倒 伏 程 度	
			長	長		収 量	同 肩			千 粒 重
							左 比	米 歩 重 合		
月・日	月・日	cm	cm	本/m ²	kg/10a	%	%	g		
ちくし11号	8.22	9.30	70	20.7	275	516	104	3.0	22.2	3.5
(標)日本晴	8.23	10.2	76	20.4	316	495	100	3.4	23.2	3.9
ちくし12号	8.24	10.4	76	21.3	354	563	105	6.0	22.0	3.3
(標)日本晴	8.23	10.2	78	21.0	360	537	100	3.2	23.4	3.5
ちくし13号	8.30	10.15	72	18.1	269	425	92	8.9	22.3	2.3
ちくし14号	8.31	10.16	63	18.2	368	476	103	4.0	20.7	2.0
(標)ヒノヒカリ	9.1	10.14	84	19.7	323	461	100	12.1	20.6	3.5

注) 倒伏程度: 0(無)~5(甚)。

表2 新育成系統の品質・食味（平成3年）

系統名 及び 品種名	食 味				外 観 品 質					
	総 合	外 観	味	粘 り	総 合	腹 白	心 白	乳 白	茶 米	光 沢
ちくし11号	-0.43	-0.12	-0.12	-0.42	3.0	1.0	0	0.5	1.0	7.0
ちくし12号	-0.28	-0.08	-0.19	-0.16	3.0	3.0	1.0	1.0	0	7.0
ちくし13号	-0.13	0.00	-0.12	0.00	4.5	1.0	1.0	0	2.0	6.0
ちくし14号	0.07	0.22	0.11	0.12	4.0	3.0	1.0	2.0	1.0	6.0
コシヒカリ	0.00	0.00	0.00	0.00	3.3	1.5	0.7	0.2	0.3	7.0
ヒノヒカリ	0.50	0.37	-0.03	0.50	5.0	1.0	2.0	1.0	1.0	6.0
日本晴	-0.61*	-0.11	-0.11	-0.49	5.0	4.7	1.0	0.7	0.3	5.3

注) ①食味はコシヒカリを標準とし、2回の平均値で示した(*: 5%水準で有意であることを示す)。②外観品質の総合: 1(上の上)~9(下の下)。光沢: 7(大)~3(小)、③その他の形質: 0(無)~7(多)。

3. その他特記事項

- 1) 担当部科室名: 農産研究所 育種部 水稻育種研究室
- 2) 研究担当者名: 今林惣一郎・濱地勇次・古野久美・西山壽
- 3) 研究課題名: 水稻の新品種育成 - 良食味品種の育成 -
- 4) 期 間 : 昭和63年~平成3年
- 5) 予算区分: 県特
- 6) 既発表論文・資料名等: 昭和63~平成3年度 福岡県農業総合試験場・農産研究所 水稻育種研究室 水稻育種試験成績書
- 7) 取りまとめ責任者名: 濱地勇次